明治廿六年八月

北征録

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

明治廿六年一月廿日（微雨）
星亨氏ハ遠藤直宅氏を隨ひ、杉田定一
氏ハ土田直哲次郎氏を伴ひ、予前ニ時を以て都門
を発し北陸道遊説の程ニ上る、予ハ一時世方列
車長野縣上田ニ着すや、地方黨員黒澤
二藤すゝ村宮賀、本村峯三郎氏相迎へて
自由黨万歳を山呼す、第八本部の命を
申し上田より星氏と同行す、
縣郡川辺村の富豪家ニ藤岡助氏（自由党員）
屋代まで乗車す、
長野驛ニ到れハ鈴木昌司氏ハ横嶺氏と共ニ来り

自由党事務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

會し停車中暫らく談話をなし、西氏八鉄道
に敷線敷実現の程を上れり、
新潟縣新井に抵れハ、井沢貞治氏来り迎へ、
高田に抵れハ、森山信一、松本寿重郎諸氏迎へ、
又富山縣有志惣代として、上野音之助、国無
き乃、藤村甲之助三氏来り迎へ、相共に直江津の有志の歓迎す
る着す、時正に黄昏、直江津
うその数百氏、自由万歳を唱へ
る振し、旅装を脱す、
松田、山田垣両氏八目下新潟地方巡遊中なり松田
正久氏の一行を富せんが為めに、午後七時客の着を
待ち

搭し、直に新潟に向ふ、且つ磐梯七、

八月廿二日（雨）

午前六時西頸城郡の歓迎委員、山川貞次氏
及び富山縣歓迎委員諸氏と共に直江津に
着す、西頸城郡政友諸氏亦た相迎へり、
進んで名立駅に抵れハ、田原幽平、増吉忠郎
磯谷猛四郎諸氏相迎へ、又途中岡田七五郎、磯

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

谷仙之助、関伏基、宮路来、京泉基一、
磯谷末松、孝物十氏、斉祈と相迎ふ、午前8時半汽
西頭城郡能生町實相院の政決を斎ふ臨む、
降雨を冒して来賀するもの三百餘、関澤基氏
開會の旨趣を陳へ、第1自由党處世の方針を
述へ、星氏ハ主賓として演説、次の人民と題して演説し
自由万歳声裡に散し、直ちに能生町を経し、
脱事を疲駆して郡田伏所々を大雲寺
の政決を斎ふ臨む、門前緑門を装ひ、紅球燈
を吊し、會衆一千三百餘、午后3時半を以て
開會し、関決氏開會を報し、第1吾党の方

「第1の田伏、第2の岩ヶ谷、第3の磯部塩尻
村、第4の場信次氏等参
歸國の旅費、貴重
と申込み、如何とも其ハ
主氏と協議交渉せざる
以て断然之を謝絶せり」

針を明かす、星氏ハ壇上に立ち主義論を述へ、大島来
聲裡に散會す、直ちに会する者ハ志の懇親会に
列席者百餘、会幹惣代開會の要旨を陳べ、来
ハ一行を式装し勤行を演べ、田泉此の手、松木大、
力両氏の熱心なる應援ありし、当郡に我党の加
盟せんとするもの多く、党勢益隆盛ならんとす
る形勢なり、
午後7時田伏大会堂にて懇親会を開き、来川所と
振り、早川屋に投宿す、洪雨益を増すかし、
田伏より見送者多く、山川真次、松木直松、
岩崎底郎、宝川五十松、大島秀、建宇勘次郎、

自由黨事務所
自由黨事務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

丁
十八里
里里里四里
八二一十二
一一一一
一一一一
れれれれ
ばばばば
ま ま ま ま
で で で で
お お お お
伴 向 伴 伴
ふ ふ ふ ふ
べ 東 べ べ
し 日 し し
川 川
平 平
田 田
伝 伝
江 江
迄 迄
能 能
田 田
経 経
三 三
日 日

村田典治、案内之部、清八桐村手の者
八、晩事の支かうしのみめ雪中徒歩して送り来れ
りをま意謝すべき也、
日伏より降旋せし、
田原逸平、中村多村、関伏墓
山川良次、宮路来、
○新潟駅を去り富山駅まで

里部川を見る
今最上三日手前
の両里部川で原城
を見て、置かれ悪
国帝文弁ふえとの
取ばりしをはかり

○

一月廿三日（雨）
午前、時経奥川の旅館を出て晩事を駆して
富山駅に向ふ、富山駅より八有之惣代として上野
福井諸氏来り迎へ、新潟駅より八見迄氏等富
山駅まで相送れり、又た西頸城郡の有志にて、旭
河辺まで見送らるもの数十名、
雨旭河汽艦にて、船橋まで時を隔ちんとす、幸
くして之を浮り彼の子知らず（親知らず）の難所
も左方の海濱を眺めつゝ、青海、辛抜、泊等を
経て、入善に抵れバ、代議士石川順平氏を始め忠
愛倶楽部員東道、先名のみを記す、岡本亀

自由党書類所
御用掛事務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

四郎、岡島稲城、加藤安孝、小崎四平、
寺尾成次郎等外数十氏来り迎へ、田原屋
に於て宴を張て三日市町の有志数十名も
会合、西徳寺に抵れば、二千有余の聴衆
既に場に満ち溢れ会を促せり、政論の主
筆高橋基一氏富山より来り会す、午后三時開
会、岡島稲城氏開会の旨趣を述べ、高橋基
一氏（対外交策）二時間（自由党の前途）星氏
（国会の権利）と演じ午后七時前自宮に帰る盛
を祝し散会せり、
當地は改進党の本拠と称する処なれ
ば、演説中屢々拍手喝采の声場内に起り
たるも、敵党の為めに妨害せられたる
ことなく、到る処傍聴の人堵の如く、
殊に壮士数十名も引率して、演説を妨害
せんことを謀りたるも、聴衆の熱心なる
彼等の目的を果すこと能はず、却て
聴衆の為めに駆逐せられたるの始末
なりし、
翌廿日改進党の演説会を開くや、到る処傍聴の人
堵の如く、殊に壮士数十名も引率して、演説を妨害
せんことを謀りたるも、聴衆の熱心なる
彼等の目的を果すこと能はず、却て
聴衆の為めに駆逐せられたるの始末
なりし、
翌廿日改進党の演説会を開くや、到る処傍聴の人
堵の如く、殊に壮士数十名も引率して、演説を妨害
せんことを謀りたるも、聴衆の熱心なる
彼等の目的を果すこと能はず、却て
聴衆の為めに駆逐せられたるの始末
なりし、

自由党訓務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

下新川郡下三村
福井重成
富次郎助

又臨監警察官ハ此の日又對立の形勢なりしを以て
も豫め、持ち數本の川重を配置して演壇
の四周を警衛せしめ、等共の事の求めを以
て臨監警部に請求へ、悉く川重を退かしめ、
加此して後ち公明正大、我党の政策方針を論
し大に政府を攻撃したるも彼まそして以て
なからしめたり、快挙なりし、

三日市より翰旋せし者ハ
福井重成（村長 徴兵参事会員 郡組合会議員）
中島次郎助（郡組合会議員）此川 鮒次郎
加藤安左、寺尾誠次郎、東 庄次郎

松原芳吉、森山久次郎、長谷川彦一郎
河瀬八郎、松川榮治郎、
散會の後ち、三日市を出て、全郡道下村字
横田 谷順平氏（代議士）邸を投じ、主人の鄭重
なる饗應を受け、有志諸氏と宴を張り、
全夜氏の宿泊す、氏ハ當地方の旧家にて又郡内
屈指の資産家なり、家屋ハ壮麗にして庭園
廣く、一行ハ為めに旅愁を慰むるを得たり、

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

井田を奥津まで里許

（會場の入口に大緑門を装飾す）

○

一、廿七日（雨）

午前十時伊田より谷順平氏の邸を発し、奥津町に赴く、途中の山嶽雲の如く、暁雪影を翻へして奥津町に入る、凌楼を午餉を喫し、常楽堂に開会の政談演説會を催ふし、聴衆三千餘名満場立錐の地なし、岡崎左門氏開會の挨拶を為し、岡島稲城、金山勇太郎両氏雄弁を揮ひ次で高橋基一氏（對外硬派）之に継ぐ三時間の

基礎を就く）三時閉場後直ちに最後の星氏政黨八の必要を論ず）二時間余滔々一人の如し、午后四時散会、奥津大町東京楼に於て有志大懇親会を開く、會員三百餘名方の有力家なり、開會の首辞を陳へ、且つ祭詞を朗読し、次で星氏一行を歓迎するの代議士谷順平氏立て主人として座を開き、主客一堂に会して盛んに献酬す、平素、我同志と苦楽を共にせられ、氏の精神自由黨に賛成せつるを以て、本日我同志の大集会

自由党書類 四

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

れハ希くハ當場ニ於て、請場一致の決議を以て、全氏の立候を断然御取消相成度旨を申込て、大会ニ諮るの式ニハ其儘ニ差置、十両會の如くこの儘ニして、衆言するや、満場陰の決議をなして、岡島稲城氏の発言を申込、岡、福井両氏を委員として、各氏ニ通知するの途ニ出ん、暫くハ静粛を保ち、委員の回答を待ち、次ニ全氏の代理者を以て、非常議會ニ於ても、自由党運動の言略も叙し、立候を取消の手續をなす事ニせんぬ、

新川郵便局

能田龍野関係文書

叙し、加之該會ニ対する決心及現時自由党の勢力ハ天時、地の利、人の和ニ合せ有する理由を論じ、大ニ地方の人心を鼓舞せん、先ず助役郎、等諸氏数百の宴ニ招待し、主客肝膽を開きて将来を談じ、自由万歳を祝して散会す、當場ニ直ニ我党ニ加盟するもの頗る多し、以の夜旅館高田屋ニ投宿す、

奥津ニ於ても尽力せ一会ありたき旨

岩崎平（代議士）　岡崎友三（警部長）　岡田良平（同）

岩崎平助（村長）　山沢長九郎（収税吏員）

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

横田榮紙、阿波加良造、住東祐良
大崎嘉一（脱退）岡田達二、矢吉助七郎
高田要之助、東道孤、井崎駒次郎
山口勝次郎、木村孤作、木下幸次郎
桐岡與一、綱井六左門、
奥津町ハ下新川郡の都會ニして人家三千餘
近傍十ヶ町村より政社の團體
奥津立憲倶楽部
井沢紋三郎氏（本家）書頭ニして、谷氏副
書頭トなり、会員拾七名ニ及ぶ
七致せり、

高山市より（明治社員）松田義政（主筆）高森
錢次郎の両氏、又寺島柳右エ門、石井九平、武部
其文、栅田安之助等諸氏来會す、
奥津町の阿波加脩造氏（漢學者ニて）八等の四
友なり、懇望御座ニ高し、左ノ三吟を賜ハり、年の
来方（ニ）七慰ひ、文情洵の感ずへきなり、

冷却狂奔昔の情、拙樓風月洗吟瞳
病来隊懶君猶笑、漫学高人絶送迎

故郷ニ高（掩）草門、病中備泊俗紛煩
安當復前西窓燭、醉把新題仔細論

自由黨書類
明治社務所
国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

奥津ゟ富山まで
六里

八月廿五日（雨）

宇之助八時奥津の旅館を出て、迂迂の士數十民と共に腕車を駢ねて、早月橋を渡り、此地を過ぎ、奥津より三里ばかりにして水梧町に到り、一碧亭と號する茶屋の如きに憩ひ、富山市より出迎ふるもの數名、茲に於て、縣會議員、北陲政論社員、各郡黨員、有志惣代、忠信協會員、義勇會員、富山市會議員等相迎へ、腕車百五十餘輛を連ね、歓呼聲の如き裡に富山市旅籠町木賀方に投ず、時に午後一時半、石川縣自由黨員、代議士杉村寛正氏を縣黨員代表として、一行の勞を慰せんがため來會せり、

午後二時諏訪座の演説會に臨む、來聽者四千餘、後れて來りしもの八百餘人を得て空しく場の四周に滿ち、其盛なりしこと、又た驚くの外なし、演説會の終るや、更に一部の有志を踏落に招き、以て其

自由黨關係
御用掛事務所
国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

「案ハ慎重ニ中座ノ上ア名山富親ヲ一通ノ注意ヲ受ク」

盛會ヲ推知スベシ、次ニ、栃田安之助氏（弁護士副會長）開會ノ要旨ヲ述ベ、次ニ、高橋基一氏（對外政策）諸氏雄弁ヲ揮ヒ次ニ、（吾党ノ言動及他党トノ関係）ヲ述ベ、最後ニ星氏ハ（條約改正論）ヲ演シ、拍手雷ノ如ク自由万歳ノ声裡ニ散會セシハ、午後、時頃ナリシ、

演説會散會ノ後ち日新樓ニ於テ有志懇親會ヲ開キ、樓門ニ大緑門ヲ設ケ国旗ヲ掲ケ装飾頗ル壮也、来會者三百餘、栃田安之助氏開會ノ要旨ヲ陳ベ、星氏ハ

富山市
石井九平
藤村寅助

行ヲ代表シ、謝辞ヲ述ベ一場ノ演説ヲナシ、小塚氏ノ引續キ諸君ニ一言ヲ乞フ、我輩ハ賛成セラルル諸君ハ直ニ入黨セラレタシト陳ベ、岡島、達坂ノ諸氏カ盟用紙ヲ配布シ、席ヲ直ニ加盟スルもの數十名ノ多キニ及ビケリ、酒間絃歌數十名杯盤ヲ周旋シ、自由党万歳ヲ祝シつつ散會セハ、午後十時過ナリシ、

高山市ニ於テ尽力セシ発起者ハ

佐々木平五郎、島崎良輔、林　陽見
中野卓作、温井七郎、藤村寅助
丸山荘造、福村清平、村本権作

自由黨報務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

廣瀬伊蒿門、五十嵐章造、中出重吉、
在原大進、大橋敬一（以上新川郡）
岩城隆常（代議士）
石井九平、榊田安太郎、金山手三吉
金尾榮造、峯坂清彦（以上富山市）
重松貫平、浅野長太郎、該尾大三郎
（以上婦負郡）

此の夜當市辨護士會及び北陸鉄道期成
同盟會より熱心懇請を受け、慨然
其時間の之一を犠牲にするを
を能はず、依て両會合同すべき事を決し

乃ち仙人掌に赴く、會同の諸氏左の如し、
武部其文（富山）　榊田安太郎（富山）
江守精一　　石藤良造
杉江重義　　杉坂晃明
山岸佐太郎（以上辨護士）

中田清音、宮田林藏、関野善次郎
松井伊平、宇津善吉、志波久次郎
江守精一、浅野清三郎、若林元四郎
吉田仲太郎、宮田兵藏、大間知小太郎
（以上鉄道期成同盟會員）

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

吾一行ハ歓迎の間、諸氏と交歓を結び辞して旅館に帰りしハ正に夜半、

高岡市歓迎委員として駅会頭長、兼高岡手長源三作氏来富するまで頗る多し、此の各郡の有志

▲龍野氏の病気　龍野周一郎氏は其前夜高岡に於てチブス的疾病に罹り俄に旅行は如何あらんと一同案じたるも井波に着したの病気は益〻重体となりしに依り宿所も別にしる頭は益〻重体となりしに依り宿所も別にして医師の診察を受けたり

「今朝余ハ病気のため一足さきに発す」と更く、

警部署高報關る新湊駅より電報にて氏の漸く近傍に到着し警部数名駅に出迎へ丁重なる歓迎を受けしなる人々へ今後礼を述べ且つ懇親を臨監し今暫の間と雖ども滞留氏も来訪し帰るの時の事情を述べ謝意を表らるゝなし、吟々

八月廿六日（晴）

午前六時北陸鉄道部成岡盟富員、江守、窓田等の諸氏、及び地方有志の来訪織るが如し、

午前九時富山市を発す、石井九平、柳田安太郎、坂井敬義、手島松右門、懲助重作、武部真文、五十嵐政雄、上野安太郎、荒井秒太郎、浅井嘉七郎、奥岩吉、政論社高橋基一、小塚義太郎、石黒準太郎の諸氏、及び地元警部長、富岡まで同行し、島崎良太郎、浅野長太郎、藤村幸太郎、遠坂清彦、奥住俊禅外数十氏及び鉄道部成岡盟富員の代表として有志

自由党報告演説筆記
国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

▲龍野氏の病氣　龍野周一郎氏は其前夜高岡に於てチブス的疾病に罹り碾波行は如何あらんと一同案じたるに同氏の熱心なる此れ程の病氣はと押して出發したるも井波に着したる頃は益〻重体となりしに依り宿所も別にして醫師の診察を受けたり

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165
挟み込み物

なり毫も實用に益する所なし驕奢は濫冗なり徒らに肉體の欲を恣にするに過ぎず苟くも此二者の流行するに於ては勤儉質實の風地を掃ふて空しからざるを得ず勤儉質實は事を爲すの志望を養ひ功を成すの力量を蓄ふるに足り華美驕奢の結果は則ち之に反す然らば華美

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165
挟み込み物

吾一行ハ歓酌の間、諸氏と交歓を結び辞して旅館に帰りしハ正十夜半、

高岡市歓迎委員として駅会頭長、兼高岡手長源二作氏来富せらるゝ趣き、此の各駅の有志来富するまで頭つ多し、

「今朝茶ハ病気のため一生すみ給ふ」と変く、

警部署当局親閲を新聞縦覧者の謄記を許可し謄写を便宜ならしむ、吟

○

八月廿六日（晴）

午前六時北陸鉄道期成同盟会員江守、窓田等の諸氏、及び地方有志の来訪織るの如し、

午前九時富山市を発す、石井九平、柳田安太郎、坂井敬義、寺島松右門、徹脇重作、武部真文、五十嵐政雄、上野安太郎、芦井秒太郎、浅井喜嘉七郎、奥岩吉、政論社高橋基一、小塚義太郎、石黒準太郎の諸氏八高岡まで同行し、島崎良太郎、浅野長太郎、藤村幸太郎、逢坂清彦、奥住俊禅外数十氏及び鉄道期成同盟会の代表有志数

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

富山市より高岡市まで六里

久次郎氏等は呉羽山まで相送れり、途中小杉町我党の熱心家松長豊吉氏の邸に休憩し、進んで高岡市より来迎のごとく、歓迎の士雲のごとく、歓呼時鐘の如し、吾一行は旅館木津楼に投ず、砺波野の有志菊野久寿、諸氏歓迎のため続々来訪せり、市長の案内を喫れる後ち、堀市長の案内を喫れる後ち、堀市長の案内を喫れる後ち、堀

（高園市役所
堀仁作
寺島松吉）

（発起人ニ非ザルモ当日来会ノ党員ニテ重ノ中島氏来園セリ）

其ノ他ニテ）

直ニ新曼樓ノ有志大懇親会ヲ開キ、会員百五十餘名、坂井敬義氏開会ノ宣言ヲ告ケ、星氏（財経ヨリ代ツテ）稲田安太郎氏ノ演説アリ、校主数十頃（周旋ニ周旋ヲ重ネ、主客歓ヲ尽シテ当地ノ演説ヲ終リ、発起者ノ一人タル非常ノ喜ヒ且ツ謝シ、夜ノ九時六十分ヲ以テ閉会ヲ宣告シ、おのおの送ル稲田氏ハ高園ニ一泊シ、翌日政友数氏ノ懇談ヲ受ケ、又ハ政友数氏ノ懇談ヲ受ケ、

高園ニ於ケル発起者ハ

堀　仁作（駅ニ於テ高園市長）　杉本四五六、

阪井敬義、寺島松吉（駅ニ於テ高園市助役）

藤脇重作、江守又一（高園市参事会員）

奎森治朝、菅野傳吉（高園市参事会員）

木津太郎平（高園市参事会員）　塩谷利平、

自由党関係資料

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

高岡市ヶ井波町ヘ
七里

仏言寺住職
上田昇沢師
妙蓮寺住職
竹部知芳師

○

八月廿七日（雨）

午前九時半高岡の旅館を発し、迎の諸氏數十氏と共に、腕車を疾駆して砺波郡井波町へ向ふ、途中戸出町へ抵れば、警察官儀員数名来り迎へ、午后一時井波町へ入る、町民も祝し、観者堵の如し、吾一行八旅館へ入れば病のため妙蓮寺へ於て晩餐を饗すと、本願寺派会衆員、桂井他數氏来訪せり、時に午后九時一寸前鐘、午后三時半八乙女座の政治を論ず

自由党関係資料

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

百餘、満場三鍾の如し、感
こうしつゝある後れて来たる人々を得ずして空しく之
帰りしもの甚だ多かりしを
告げ、次に高橋基一氏順次
雄辯を鼓し、次に来賓政党の公爭（最後の星
氏今日の急務）を演じ拍手喝采の裡
も終了を告げ、散会せしハ午後七時過ぎなりし、
直ちに鶴鳴楼に有志の懇親会を開く、出
席者百五十餘、武部甚文氏開会の首
辞を述べ一場の演説ありし、
次に校長吉四郎、保田安右衛門、上野安右衛門、

岡崎稲城、諸氏の熱烈なる演説ありて、散
の旨の時刻を報じ、和気堂々裡に
を終りて散会す、又九三南山頭より煙火打ち揚げ
を放揚し頗る盛況を呈せり、
當地より前代議士武部甚文氏も始め有力家多
く我党に加盟せり、

井波にて尽力せし人々

菊野久左衛門（貴族院多選議員格七年の人）武部甚文、
（前代議士当時富山県会議長）長谷川保左衛門、
山上勘四郎、板倉喜助、上田又一、福井
修三、武部太文、宮崎賀見欽十郎（現在代言人）

一家に病のある時親戚に宿泊をうし

砺波郡山野村
菊野久左衛門
武部甚文

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

第島秀太郎、板橋洋、吉田源次郎
石鳴和作、堂堂又衛
前代議士武部甚吉氏其の有志
之を加盟せり、

十月廿日〔六雨〕
青山時井波の東本願寺別院なる瑞泉寺を訪ひ
れ、高僧と茶菓の御饗應を受け、其の聖徳
太子自作の二歳の御肖像を拝し、又た太子の
繪傳を一覧したり、
午前九時過ぎ迄の汽車にて富山氏と共に瞬事を
疲驅して、石動町まで來る、行くさと三里許
津沢町の抵て江川氏と共に三艘の舟を雇して、
白井、小西等諸氏と共に三艘の舟を雇して、
小谷新川を下り、福町に近く鳴八數年の
煙火を放揚して自由万歳を祝せり、小谷新橋

井波町より石動町まで五里半

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

時ヲ到ルハ矢張リ孫二氏ヲ首ノ如キ有志ノ者ハ勿論ノ事、市内ノ人々モ亦奮ッテ之ニ賛成シ、市勢ノ発展ヲ計ラレンコトヲ希望スル次第デアリマス（拍手起ル）

次ニ市会ノ決議ニ依リマシテ、名誉市民ノ推薦ヲ為スコトニナッテ居リマスガ、此ノ点ニ付キマシテハ、市会ニ於キマシテ、慎重ニ御調査ノ上、適当ノ人物ヲ推薦スルノ手続ヲ為スコトニ決定イタシマシタノデ

せんとのため町民各戸狩燈を点し、有志の
壮夫は松火を揚げ、市中の練道等
飾りたてゝ賑ふ
席上鳥谷君の紹介にて加盟する旨の一同賛成あり
以て其の盛況を推知すべきなり、
石動にて尽力せし人々、
石波自由倶楽部員は皆な身を以て、九の字の民
最も力を致したる人々なり、
太田作手、八十島甚平、田中兼一郎
（追生村）　増谷徳手、菊野勝作
吉岡清作、（石波村）　鳥谷長治郎

（東鷲宮村）　田中又吉（北鷲宮村）
沼田平作、小西吉松、（津久井村）
奥富喜聖、（南河原村）
白井松二、奥山岩吉（松沢村）
中山岡蔵、石黒庸次、（荒川村）
砂田太八郎、野口又壱郎、（正能村）
尾柄芳一、（高波村）　矢後保二
（醍醐村）　土屋友之、（大野村）
本庄亀手、（小鹿野町）
萩原亀助、（秩父町）　島田徳治郎（福岡村）
玉井岩治雄、（東吉田村）　上野安右衛門

自由党事務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

小山善作、林成太郎、
林喜郎、片山佐久、（西五住お）
長大沼太郎、（山王お）高嶋宅藏、
大庭小三郎、（南鮮会）杉野長平
中田宇一郎、安井幸七、富岡利七
池田直太郎、成香喜一郎、坂田徳平
富田六五五、宝谷他市郎、池田宇次郎
後加清三郎、清水後輔、手塚新吾
上野常造、林長太郎、董事喜七
蓮井久次郎、平田春吉、岩村清治郎
堀波與吉、岩崎長壹、岩峯社一

石動今高岡ヘ三里

岡田栄次郎、簑谷栄次郎、富田重太郎
北村利吉、（石動町）

石動野砲隊自由倶楽部ヨリ、那谷社の團體ヲ
シテ郡内自由党ヲ統轄ヲ、上野氏ニ之ヲ託セ
ラル、屋実ハ明治廿年の新等ニ係ル、

廿九日（晴）

朝来刺ヲ通ずるの輩織るのごとし、午前十時石動
町ヲ発す、煙大數衆吾一行ヲ送ル、有志諸氏

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

と岩部川の辺を分枝し、十数戸と並び小舟二隻を艤し、岩部川を下る、舟中手酌を喫し、両岸の風光を賞しつゝ、古戦場を語り快遊すること、高岡と希臘の隣国とを比較し、高橋園島両氏と並び上陸し、他の政友に先だち杖本を指す、吾一行が高岡に上陸せしや、既に各地の官員紳士等多数来会して、盛んに歓待せられたるの状、古墨を擲つに到れり、当地実業家が我党諸士を遇するの厚きを賞賛せんとするの声、耳を聾けて吾一行を待てり、由て吾一行

富山県高岡市
正村丘太郎
伊藤祐義

と陣ず、
正村丘太郎、荒井荘蔵、林喜次郎
木津太郎平、菅池直治郎、風本弥吉
神谷太作、三枝政吉、大滝治平
正村伊平、大坪甚三郎、正村甚七
富岡久七、密田善三、長谷計吉
大村清平、志摩徳次郎、神谷吉之助
時女作平、十二野長次郎、堀二作（七千）
伊東祐義、小松八郎（南砺市利賀村）
伊東祐義氏開会の要旨を陳べ、星武、
野嗅次、実業、注意すべき要項を演じ

羽柏鶴陣務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

高橋氏ヲ訪ヒ謝辞ヲ陳ベ、献酬ノ後数十通ヲ交換シ、辞ヲ結ヒ、終ニ数十通ヲ交換シ、当地ヲ辞シ、仗木ヲ向ヒ、暫ク兵ヲ園島ニ留メ、又実業家数氏ト懇談ヲ為シ、伊東祐義、西氏仗木浜ニ至リテ相送リ、

仗木浜泣別

仗木浜ヲ発シ、高砂亭ニ小憩シ、午后二時投錨ノ北航丸（汽船）ニ移リ、吾一行ハ止ル事数日、園島稲城、西氏ハ公務ヲ以テ先ツ帰ヲ急ギ、伊東祐義、大滝岩吉、荒井効太郎ノ諸氏ハ艀船ヲ棄テ、本船ニ至リテ相送ル、又九井九手、園島稲城、西氏ハ公務ヲ以テ先ツ帰ヲ急ギ、伊東祐義、大滝岩吉、荒井効太郎ノ諸氏ハ艀船ヲ棄テ、本船ニ至リテ相送ル、又九井九手、

○

十一月廿日（晴）午前二時、時鳥江津ニ上陸シ、当地ニ三泊シ、吾一行ハ止ル事数日ニシテ、当地ヲ辞シ、仗木ヲ向ヒ、暫ク兵ヲ園島ニ留メ、又実業家数氏ト懇談ヲ為シ、伊東祐義、西氏仗木浜ニ至リテ相送リ、

仗木浜泣別

仗木浜ヲ発シ、高砂亭ニ小憩シ、午后二時投錨ノ北航丸（汽船）ニ移リ、吾一行ハ止ル事数日ニシテ、当地ヲ辞シ、仗木ヲ向ヒ、暫ク兵ヲ園島ニ留メ、又実業家数氏ト懇談ヲ為シ、伊東祐義、西氏仗木浜ニ至リテ相送リ、

○

十一月廿日（晴）午前二時、時鳥江津ニ上陸シ、当地ニ三泊シ、吾一行ハ止ル事数日ニシテ、当地ヲ辞シ、仗木ヲ向ヒ、暫ク兵ヲ園島ニ留メ、又実業家数氏ト懇談ヲ為シ、伊東祐義、西氏仗木浜ニ至リテ相送リ、

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

現時富山市よりの四新聞ニ、

北陸政論（三筆島村抱月氏ニて）
自由党の機関ニて、

北陸民報（福井市江氏の新聞ニて）
自ら自由主義と称す

明治（福井政談氏等の執筆ニて）
自ら自由主義と称す、えい荘東瓜の機関ニし、

富山日報
改進党ニ一の機関ニて、

富山県会議現今の組織左の如し

自由党員　財水郡　議長　堀仁作

自由主義者　寺島松右エ門

自由党又　富山市　副議長　上野安太郎

自由党員　嶋右右

自由主義者　婦負郡　岩嵐政雄

自由主義者　久坪三郎

自由党員　窪田又五郎

自由党員　射水郡　矢後孫二

自由党事務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

自由党員

自由党員　婦負郡　當選者　浅野長太郎

自由党員　重松覚平

自由党員　酒井重則

上新川郡　當選者　藤村幸太郎

自由党員　桂井他八郎

自由党員　仲平

自由党員　金岡又左エ門

自由党員　石坂嘉一

改進派　森正太郎

水陸民報派

下新川郡　當選者　岡與左エ門

自由党員　宮崎廣八郎

自由主義者　山沢長九郎

自由主義者　安部欽次

富山縣衆議院議員ハ左の如し

第一区　上新川郡婦負郡　當選者　岩城隆常（改）関野喜次郎

第二区　下新川郡　泉孔三　○○○

第三区　下新川郡佛田村　石黒順平（改）田村惟昌

第四区　射水郡　稲垣示

自由党報告所

自由党報告所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

第壹回　碍波　島田孝之一郎　西武部其文

拝啓先般は其一切
御地滞在のみぎりは一方
ならざる御配慮に預り不悪御礼申上
おくとも自宅にて家族
限のおめ様にて寂寥
の極市中に出いたしたく
候御察し被下度
敬具

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

富山県重要交友宿所

下新川郡道下村　谷順平
上新川郡大窪村　岩城隆常
射水郡高岡市　堀仁作
砺波郡西五位村　上野宗郎
射水郡七美村　寺島松之
砺波郡東五位村　五十嵐雄
婦負郡早速村　浅野長之助
上新川郡福沢村　藤村市太郎
下新川郡入善村　岡興左エ門
砺波郡高瀬村　武部其文

自由党事務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

砺波郡岸野村
射水郡小杉町
高岡市高岡町
今　護町
上新川郡島村
砺波郡福野村
今　郡農蚕村
今　郡松沢村

菊野久春
杉長豊吉
榊田実郎
石井九市
島崎良太郎
柱井他八郎
矢後孫二
荒井初太郎

自由党事務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

自白審事務所

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165

(21) 9000 駐在所 電話 500 元 250 上田村役場
1700 汽車 250 通車賃 250 弁 150 弁 50 郵便 1,590

(22) 450 電報 2000 特 250 田代電報 50 弁 150 弁
4350 田代まで郵送分 900 練馬郵

(23) 1750 捕 2000 英代 250 電 50 電

(24) 450 電 250 電 80 郵 40 ﾌﾗﾝｽ 350 電

(25) 150 電 250 電 250 電 150 電

(26) 100 雪 1000 雪 450 電 1000 留下所 350 使弁

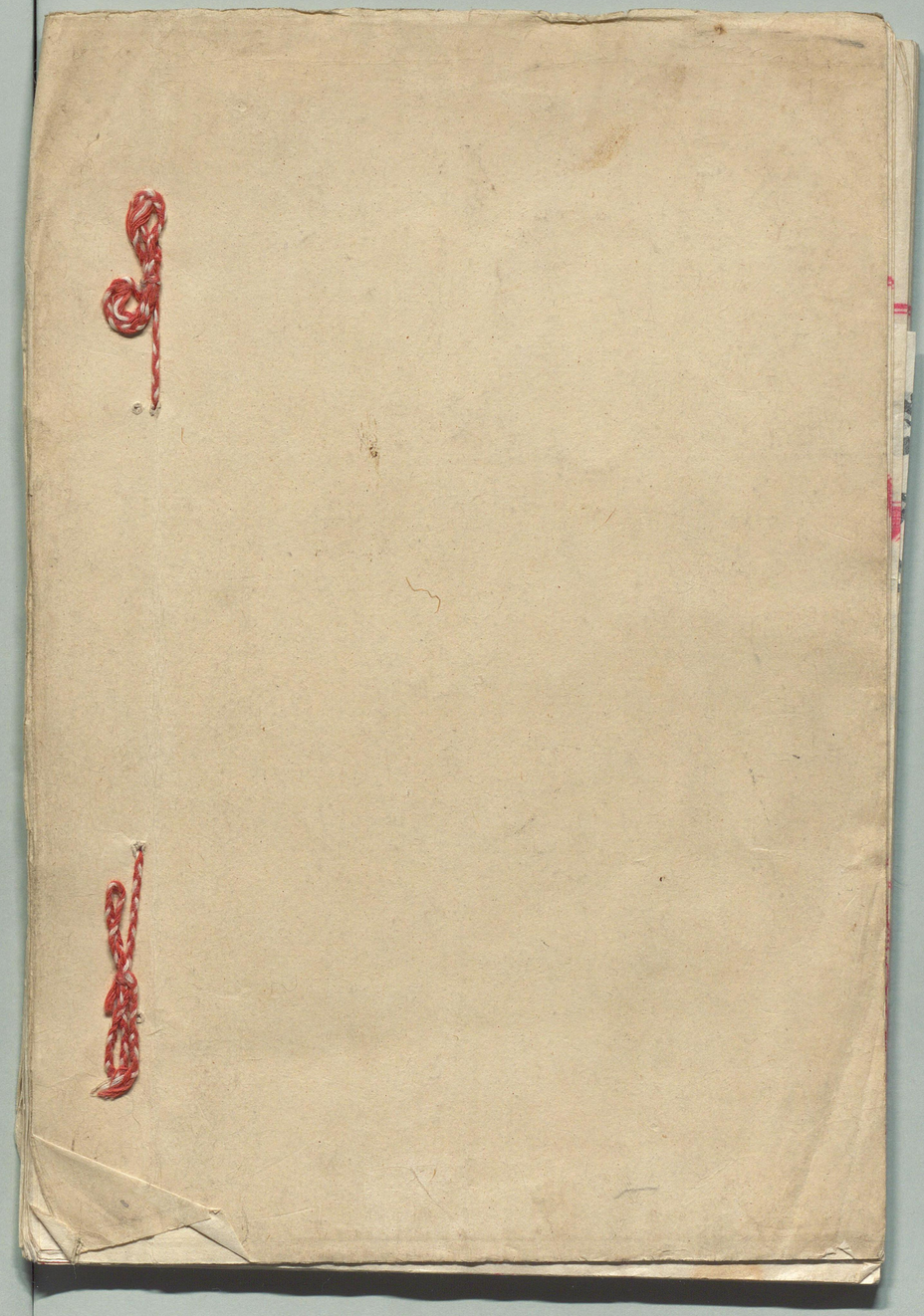
(27) 250 電 150 電 70 ﾌﾗﾝｽ 1000 五七 400 郵分

(28) 330 電 350 電 150 弁

(29) 750 電 450 弁 4200 発 1000 五七 220 ﾌﾗﾝｽ

1,590
1,750
1,400
1190
1200
2900
2270
1250
8190

国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165



国立国会図書館　龍野周一郎関係文書 165